

第 29 回学術大会ダイジェスト

JASTRO 第 29 回学術大会 (+FARO 第 1 回学術大会) の見どころをお届けします

大会 1 日目 -11 月 25 日 (金) -

開会式 8:30-8:55 メインホール

JASTRO オーケストラ有志による弦楽四重奏で開会。軽食を提供予定です。

特別企画 1 : JASTRO 将来像 9:00-12:00 メインホール

学会が担う役割のうち、教育、研究開発および政策提言などにつき、現状と将来展望について議論します。自分には関係ないと思っているあなた、それは違います。JASTRO は皆で作り上げるもの。是非議論に参加ください。

特別企画 2 : 放射線治療の役割向上に向けて

13:10-16:10 メインホール

放射線治療医にとって、がん診療における放射線治療の利用率は生命線。日本の新規がん患者の 45%が放射線治療の適応と見込まれるも、利用率は 25%に留まるのが現状。がん診療における放射線治療の役割を向上させるには何が必要か、多面的に議論します。

シンポジウム 1 : 分子標的治療と放射線治療の併用

16:10-17:40 メインホール

腫瘍内科医、放射線腫瘍医それぞれの立場から、分子標的治療と放射線治療の併用について議論します。

日本臨床腫瘍学会との共催

最優秀演題セッション 18:00-18:30 ルーム A

BP-1: Final Report of Accelerated vs. Conventional Fractionation RT for Early Glottic Cancer (JCOG0701). Koji Konishi

BP-2: Confirmatory study of endoscopic resection and chemoradiation for early esophageal cancer: JCOG0508. Keiji Nihei

査読で 10 点満点を獲得した上記 2 演題を取り上げます。初の試みとしてディスカッションによる討議を加えます。結論をより深く理解し、明日の診療に活かすことができますでしょう。

受賞講演 17:45-18:30 アネックスホール 1

阿部賞：青山英史先生

「転移性脳腫瘍に対する定位照射単独 vs. 全脳照射併用：JROSG99-1 二次解析」

梅垣賞：吉田由香里先生

「炭素線分割照射治療におけるマウスモデルを用いた治療効果比の評価」

教育講演

教育講演 1 「頭頸部」 16:55-17:35 アネックスホール 1

教育講演 2 「子宮頸がん」 17:10-17:50 アネックスホール 2

教育講演 3 「生物」 17:10-17:50 ルーム A

教育講演 4 「小児がん」 17:10-17:50 ルーム D

FARO Educational Lecture 1 “Head & Neck” 9:00-9:45 ルーム E

FARO Educational Lecture 2 “SBRT” 16:10-16:55 ルーム E

FARO Educational Lecture 3 “IMRT” 17:00-17:45 ルーム E

注目の一般演題

01-5: Neurological deterioration in brain metastasis patients treated with gamma knife radiosurgery. Toru Serizawa 3201人という多くの脳転移・ガンマナイフ加療後症例を対象にした、神経症状増悪の評価

02-1: Serum ApoC-II as a biomarker in cervical cancer after radiotherapy: A prospective study (JROSG10-4). Yoko Harima 新規バイオマーカーApoC-IIを用いた多施設前向き試験による子宮頸癌の放射線治療後予後予測結果

03-1: Frequency of CT-based IGBT affects the clinical outcome for elderly patients with cervical cancer. Daijiro Kobayashi 高齢の子宮頸癌患者における、CT撮影が1回のみでのIGBTと2回以上のIGBTの治療成績の比較

06-1: Multiinstitutional prospective study on APBI (HDR interstitial brachytherapy); 60M-clinical results. Taisei Matsumura 組織内照射によるAPBIの多施設共同前向き試験。観察期間5年における結果を報告。

09-1: Can Ki-67 immunostaining predict response to radiation therapy in small cell lung cancer? Naoya Ishibashi 細胞増殖マーカーのKi-67が、肺小細胞癌における放射線治療の効果予測因子となるか検討した study

011-1: Outcomes following monotherapeutic permanent brachytherapy for localized prostate cancer. Norihisa Katayama 前立腺密封小線源単独治療の484例、観察期間中央値5年の治療成績

012-1: A multi-institutional retrospective study of proton beam therapy for bone and soft tissue tumors. Shigeyuki Murayama 骨軟部腫瘍に対する、陽子線治療の多施設共同後ろ向き研究。患者数 113 人、観察期間中央値 50 か月

016-1: Novel approach for obtaining ion-recombination corrected PDDs for high-dose-rate irradiation. Hideki Kojima 超高線量率で影響が大きくなるイオン再結合の適切な補正法を開発し、臨床で多く用いられる複数の線量計で実施した研究

019-1: The feasibility of independent dose verification using golden beam data by multi-institutional study. Masanobu Itano ゴールデンビームデータを用いたビームデータ独立検証の有用性

FSS1-2: Prevalence and significance of plasma Epstein-Barr Virus DNA level in nasopharyngeal carcinoma. Anussara Prayongrat 上咽頭癌における、血漿 EB ウイルス DNA 値の保有率と重要性。EB ウイルスの DNA 量の変化と治療効果が関連している

FSS3-1: P53 and Ki67 index predicting tumor response to Chemo-RT in locally advanced head and neck cancer. Priya Baskaran Shanmuga 55 人の Stage III-IV 頭頸部癌患者(上咽頭癌を除く)の CRT 例を解析し、p53 変異頻度と Ki67 index は抗腫瘍効果のサロゲートになり得ることを示した発表

FSS4-1: Phase III Study of Comparing TF vs PF in Chemoradiotherapy for Esophageal cancer (ES0-Shanghai1). Kuaile Zhao (Mingwei Ma が代理発表) 食道がんに対する化学放射線療法における併用化学療法の PTX/5-FU と FP を比較する第 III 相多施設ランダム化試験

FSS5-3: Parameters for Local Control after Stereotactic Body Radiation Therapy for Hepatocellular Carcinoma. Sang Min Yoon 肝細胞癌に対する SBRT 約 300 例での局所制御における予後因子の検討

大会2日目 -11月26日(土)-

2日目は International day として、メインホールは英語のスライドとなり、海外演者も多数登壇予定です。同時通訳を準備しています。

特別講演1 : Predictive Models of Radio-induced Toxicity in Prostate Cancer

8:10-8:50 メインホール

前立腺がん放射線治療の有害事象について、従来の線量体積指標に加え、患者の症状に基づく個別化予測モデルの講演です。Dr. Valdagni は、放射線腫瘍学のみならず、精神腫瘍学の観点からも前立腺がんアプローチしており、興味深い講演になるものと思います。

ESTRO-JASTRO Joint Symposium : SBRT for the Lung

9:00-11:00 メインホール

日欧の肺がん SBRT のエキスパートが最新知見についてレビューします。同時通訳があるので心配不要。

ワークショップ1 : 早期肺がん : 手術か SBRT か

11:00-12:00 メインホール

早期肺がんの治療オプションとして、手術に加えて、SBRT の役割が高まりつつあります。呼吸器外科医、放射線治療医それぞれの立場から最適な治療法について講演。最後に呼吸器内科医の立場から両治療法の選択のあり方について講演してもらいます。

会長講演、理事長講演 13:10-13:40, 13:40-14:10 メインホール

それぞれ次世代に向けたメッセージが発せられます。この時間帯は他のプログラムはなし。両講演を聞くしかありません。自分の将来像について何かヒントを得ることでしょう。

国際シンポジウム : Globalization of Radiation Oncology

15:20-16:50 メインホール

医学部教育は世界医学教育連盟 (WFME) 準拠のカリキュラムへと大きく舵を切っています。我々も今後海外での研修や就職とは無縁ではられません。先達の意見を聞きながら、JASTRO の国際化がどうあるべきか考えます。

ワークショップ2 : 放射線治療における自動化・省力化

9:00-10:30 アネックスホール1

高度化・複雑化が増す一方の放射線治療においては、用いた自動化・省力化が求められています。また、データの蓄積によって予後や有害事象の予測をしようという試みもなされています。本ワークショップでは ICT 技術の放射線治療への応用を取り上げます。

シンポジウム 4 : 各職種の専門性を活かしたチーム医療体制の構築

16:00-17:30 アネックスホール 1

各職種の専門性や役割、および責任について議論し、放射線治療における医療安全の確保を念頭にしたチーム医療体制の構築をテーマとします。本セッションに関連して、ASTRO 作成の「Safety is no accident」の翻訳本を会場で配布する予定です。

症例検討会 10:45-12:00 アネックスホール 1

初めての試みです。今回は頭頸部腫瘍と肺がんの2例を取り上げます。アンサーパッドを用いて、治療方針の議論にインタラクティブに参加できます。

How to 企画 : 女性医療従事者のためのメイクアップ講習

17:10-18:00 アネックスホール 2

カラーリスト・メイキャップアーティストの西村やよい氏を講師としてお招きし、医療従事者として知っておきたいメイクアップ方法や接遇についてレクチャーしていただきます。会場から希望者を募って実演も行われますので、ぜひ積極的なご参加を。

受賞講演 17:40-18:20 アネックスホール 1

Gold Medal : 山田章吾先生「食道癌放射線治療と JASTRO への多少の貢献」

必須講習会

必須講習会 1 「医療の質 : 治療」 8:00-8:50 アネックスホール 2

※必須講習会の受講には JRS IC カードが必要です。

教育講演

教育講演 5 「乳がん」 8:10-8:50 アネックスホール 2

教育講演 6 「放射線治療計画—医師の視点と判断」 8:10-8:50 ルーム A

情報交換会 18:30-21:00 さくら/スワン

「京都の銘酒と音楽を楽しむ夕べ」をテーマとしました。ビュッフェ料理に加えて、屋台や京都の地酒コーナーをご用意しております。また、JASTRO オーケストラによる演奏やカラオケ、全員合唱タイムも予定されています。ぜひ楽しいひとときをお過ごしください。

※先着 500 名 (11 月 25 日 (金) 8:00 より参加受付にてお申込みを受け付けます)

注目の一般演題

023-1: Clinical results of chemoradiotherapy for cervical esophageal cancer: Comparison between IMRT & 3DCRT. Makoto Ito 頸部食道がんに対する化学放射線療法における 3DCRT と IMRT の比較

028-1: Carbon ion radiotherapy for mucosal melanoma of head and neck: J-CROS study. Masashi Koto 炭素イオン線の頭頸部粘膜悪性黒色腫の 260 名の多施設データでの治療成績

032-4: Three years term results of hypofractionated radiation therapy for the localized prostate cancer. Masahiro Kawahara 前立腺癌中程度寡分割 IMRT 64.4Gy/23 分割の観察期間中央値 4 年の治療成績

034-1: Pseudoprogression of GBM after Chemoradiotherapy: Diagnosis by 11C-Methionine PET. Masayuki Matsuo 膠芽腫における再発と pseudoprogression をメチオニン PET を用いて解析

036-2: Radiation effect on antitumor immunotherapy with an immunocomplex of IL2 and its monoclonal antibody. Yutaka Takahashi IL-2 の中和抗体を用いた制御性 T 細胞の減少が放射線治療へどのような影響を及ぼすかをマウスの移植腫瘍を用いて調べた研究

038-1: Dose reduction due to intra-fractional organ motion in prostate cancer hypofractionated irradiation. Hiroyasu Maruo 前立腺癌において寡分割照射を見据えて行われた通常分割 IMRT における intra-fractional motion の検討

040-1: Relapse patterns of localized Primary Breast Lymphomas. Masahiko Oguchi 希少疾患である乳房原発リンパ腫に対する治療後の再発形式を後方視的に検討

041-1: Proton beam therapy for pediatric cancer in Japan. A result of national survey. Hideyuki Sakurai 4 施設で陽子線治療を行った 20 歳未満の 343 人の治療成績・晩期有害事象の解析結果。疾患は脳腫瘍、横紋筋肉腫、神経芽細胞腫、ユーイング腫瘍など

041-4: Radiation therapy for metastatic spinal cord compression. Chisato Tonoiso 麻痺を伴う脊髄圧迫 30 例の検討。治療効果を麻痺重症度の客観的指標と関連づけて評価した

044-1: An evaluation of the interactive metal artifact reduction algorithm for radiotherapy. Osamu Umetsu 金属アーチファクト低減アルゴリズムが線量計算に与える影響を複数の金属を用いて評価した研究

045-2: A quality assurance tool for HDR brachytherapy using light from water irradiated with Ir-192 source. Akihiro Matsushita 高線量率小線源治療用線源が水中で発する光に着目した品質管理法を開発し、従来のフィルムによる QA 法と比較した研究

大会3日目 -11月27日(日)-

特別講演2：免疫チェックポイント阻害剤の次なる一手

8:10-8:50 メインホール

今話題の免疫チェックポイント阻害剤の基礎について、西川博嘉先生（国立がん研究センター）に分かりやすくレクチャーしていただきます。

ディベート：光子線治療 vs 粒子線治療

10:30-12:00 メインホール

「高精度治療におけるX線と粒子線—放射線腫瘍医はどこへ進むべきか—」をテーマに、それぞれの専門性を背景として、X線も粒子線もどのようにのびして行くのが良いか、そのために何をすべきかを議論します。

キュリー夫人生誕150周年記念シンポジウム

9:00-10:30 アネックスホール1

キュリー夫人は2度のノーベル賞を受賞した偉大な研究者ですが、色々な面で「女性初の」と称され女性や外国人故の苦労もあったようです。生誕150年を迎えるにあたり、キュリー夫人から何を学ぶか今一度考えていきたいと思えます。

日本医師会、日本女性放射線腫瘍医の会との共催

シンポジウム8：乳がん治療アップデート

13:10-14:40 ルームA

乳腺外科医および放射線腫瘍医よりリンパ節領域マネージメントに関する講演があります。また、寡分割照射や乳房再建術における放射線治療といったトピックにも触れます。

閉会式 15:20-15:50 メインホール

学術大会の様子をスライドショーで振り返ります。

教育講演

教育講演7「食道がん」 8:10-8:50 アネックスホール1

教育講演8「物理」 8:10-8:50 アネックスホール2

教育講演・基礎編 13:10-15:10 アネックスホール1

FARO Educational Lecture 4 “Cervix” 9:00-9:45 ルームE

必須講習会

必須講習会 2 「医療倫理」 13:10-14:00 メインホール

必須講習会 3 「医療安全・放射線防護」 14:10-15:00 メインホール

指導者講習会 8:00-8:50 ルーム A

※必須講習会の受講には JRS IC カードが必要です。

注目の一般演題

RQ4-1: Evaluation and future tasks in nursing intervention by Certified Nurses in Radiation Therapy Nursing. Hiromi Asada がん放射線療法看護認定看護師の役割を客観的指標に基づき評価

047-1: Outcomes after SBRT/ proton beam therapy or wedge resection for stage I NSCLC. Hideyuki Harada 早期肺癌に対する SBRT, PBT, 肺部分切除術後の治療成績の単施設レトロスペクティブ比較解析

047-2: Long-term outcomes of stereotactic body radiotherapy for primary lung cancer. Yasuo Matsumoto 単施設ながら 1000 例超の原発性肺癌に SBRT を行った治療成績

048-3: Stereotactic body radiotherapy for lung cancer patients comorbid with IPF and CPFE. Yuishiro Tsurugai 特発性間質性肺炎, 気腫合併肺線維症既往の早期肺癌患者に対する SBRT 後の治療成績に対する遡及的解析

052-2: Evaluation of the Prevalence of Burnout among Radiation Oncologists in the KROSG. Yukinori Matsuo 放射線腫瘍医における燃え尽き症候群の調査研究で、おそらく我が国では初めての試み

055-1: Clinical outcome of radiotherapy for anaplastic thyroid carcinoma : the NJRTOG retrospective survey. Hideo Kawaguchi 未分化甲状腺癌で放射線治療を受けた患者を遡及解析。手術不能例は 50Gy/10Fr/22days の治療が有効な可能性がある

FSS6-5: Six fractions/week chemoradiation versus five fractions/week chemoradiation in carcinoma Cervix. Deepak Kumar Agrawal IB2-IVA 期の子宮頸癌に対し、CDDP、29Gy の腔内照射を併用した 46Gy/23Fr の全骨盤照射を 6 日/週で施行した結果の検討

FSS7-2: Assessment of uterine motion and comparison of acute toxicity in IMRT and 3DCRT in carcinoma cervix. Ayush Naik 子宮頸癌患者における子宮の動きと、CBCT を用いた 3DCRT と IMRT における線量パラメータと急性障害の比較